

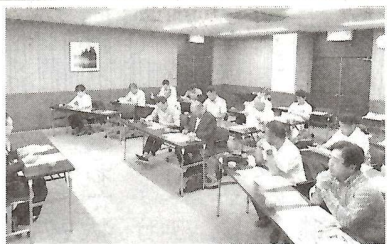
人材不足に対応必須

日貨協連の合同研修会

【九州】ネットワーク九州協同組合（永山浩二代表理事、福岡ロジテック）、協同組合大川輸送サービスセンター（下川暢洋代表理事、柳川運輸）、大分物流ネットワーク協同組合（長縄弘貴代表理事、丸高産業運輸）、

オブザーバー参加のマルゼングループ協同組合（古賀大輔代表理事、丸善海陸運輸）は15日、大分県で日本貨物運送協同組合連合会の合同研修会を実施した。

「3協同組合合同研修会」では、日貨協連の永嶋功常務理



事待遇参与が講話。運賃指数データを元に、「今年の夏は猛暑の影響もあり、飲料が多く運ばれ、アイスクリームを含む冷凍食品も非常に好調だった」と述べた。さらに、自然災害が多く発生したことを受け荷物量が増えており、「運賃指数も今までにないほどの上昇を見せている」と指摘した。

昨今の労務管理問題や人材不足に関する統計を例にした上で、「8月末には青森で特に人手が少なくなった」とし、「若者の流出が多く、完全に担い手不足な状態になっている」と報告。ローリー等特殊な輸送に関しては「夜中ではしか動けない部分もあり、働き方改革の実施による労基の問題も発生している。長距離輸送も含め、早急な対応が必要だ」と述べた。

ネットワーク九州協同組合の永山代表理事は「日貨協連から永嶋参与をお招きし、このような機会を設けることが出来た」とし、今後も継続して研修会を開催予定だという。

（青柳 翼）